

新たな北海道総合開発計画の推進 ～「ほっかいどう学」の更なる展開に向けて～

国土交通省北海道開発局開発計画課

去る平成28年3月、「世界の北海道」をキャッチフレーズとする新たな北海道総合開発計画が閣議決定されました。

新計画は、本格的な人口減少時代にあって、地域を活性化し、価値創造力を高めていくためには、自ら考え地域づくりに取り組む地域の担い手を育成、確保することが重要であるとし、地域に関する理解と愛着を深めるために「ほっかいどう学」を促進することが盛り込まれました。

「ほっかいどう学」とは、子どもから大人まで、より多くの人々が地域づくりに関心を持つ契機を創出するため、自然や歴史、文化、環境などの北海道の魅力や個性について幅広く学ぶ取組のことです。

1 背景

新たな北海道総合開発計画の策定過程で、平成27年3月から同年9月にかけて、北海道内の9地域において、「北海道価値創造パートナーシップ会議」を開催しました。

平成27年5月に開催した同網走会議で、札幌市立発寒西小学校校長（現・札幌市立屯田小学校校長）の新保元康氏などから、地域への理解と愛着を深める取組の重要性や、「ほっかいどう学」が必要との御意見が

多数あったことなどを踏まえ、新計画に「ほっかいどう学」を促進することが盛り込まれました。

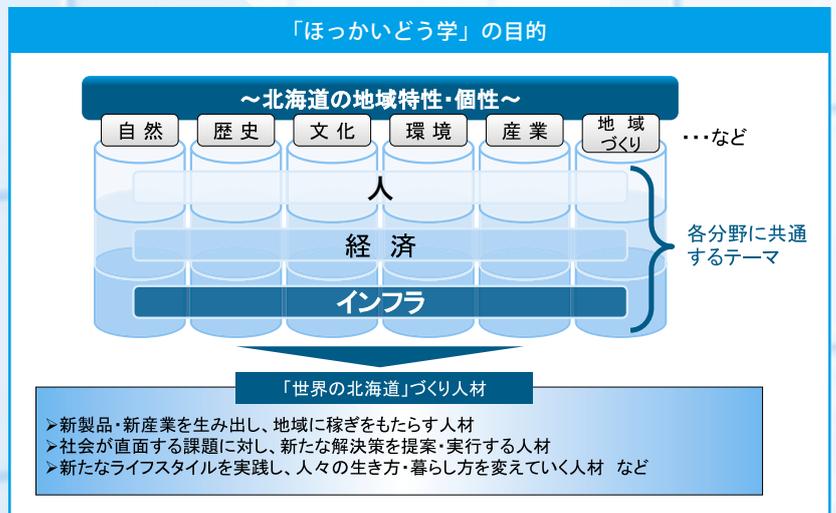
2 「ほっかいどう学」のめざすもの

北海道開発局では、「ほっかいどう学」を展開するに当たり、解決すべき課題や今後必要な取組などについて検討するため、平成28年度に有識者や関係機関などで「「ほっかいどう学」に関する意見交換会」を開催しました。同意見交換会を踏まえ、「北海道の自然や歴史、文化、環境などの分野で、北海道の地域特性や個性に焦点を当て、北海道と日本や世界との関わり、日本や世界における北海道の役割などを学び、北海道に対する理解と愛着を一層深めるとともに、北海道の強みを生かして「世界の北海道」づくりに取り組む人材を発掘・育成する」といった「ほっかいどう学」の目的、また、「ほっかいどう学」の当面の推進のためにプロジェクトチームを立ち上げ、所要の検討・活動を行うことなどを取りまとめました。

「ほっかいどう学」の学びの焦点である「北海道の地域特性・個性」に関する学習内容のイメージは、多面的な広がりを持っています。そこで具体的な学習内容について、学習テーマや学ぶ側の対象に応じて具体的に設定し、豊かな学びの場を創出していくといったことも取りまとめました。



シンポジウム（平成29年3月）



3 これまでの取組状況

北海道開発局では、前述の取りまとめを踏まえ、平成29年3月、本取組のキックオフイベント「新たな北海道総合開発計画に関するシンポジウム～「ほっかいどう学」の展開に向けて～」を開催しました。

また、平成29年6月には「ほっかいどう学」プロジェクトチームを発足、「ほっかいどう学に関する資料の収集及び提供」、「ほっかいどう学の普及、啓発及び広報活動」、「ほっかいどう学に関する研究発表会、講演会、見学会等の開催」、「ほっかいどう学に関する調査及び研究」及び「ほっかいどう学に関する教育及び教育者支援」を体系として取り組むことなどを取りまとめました。

平成29年度は、「情報発信・普及啓発」や「教員への周知・浸透等」について重点的に取り組むこととしました。

「情報発信・普及啓発」：北海道開発局のホームページのトップページに「ほっかいどう学」に関するバナーを設け、また、現在、普及啓発用リーフレット「ほっかいどう学～北の大地と先人たちが織りなす物語～」(仮称)を作成中です。平成29年11月には、(一財)北海道歴史文化財団評議員・北海道史研究協議会副会長・登別市史編さん委員会委員の関秀志氏を講師に、「～ほっかいどう学の更なる推進に向けて～近代日本と北海道－明治初期における北海道開拓政策とその史的背景－」と題した講演会を、民間団体の主催により開催

「ほっかいどう学」プロジェクトメンバー

今 尚之 氏

国立大学法人北海道教育大学教育学部准教授、同学校・地域教育研究支援センター 生涯学習・地域連携部門長

新保 元康 氏

札幌市立屯田小学校 校長

原 文宏 氏

(一社)北海道開発技術センター理事、地域政策研究所長

北室 かず子 氏

ノンフィクションライター、編集者

※ 順不同

しました。

平成30年3月には、これまでの取組を踏まえたイベント「ほっかいどう学」の学びを考えるシンポジウム2018～Let's learn Hokkaido～(仮称)を開催する予定です。

「教員への周知・浸透等」：平成29年8月に開催の「札幌市社会科教育連盟夏の学習会(提案交流会)」や同年11月に開催の「第72回北海道社会科教育研究大会釧路大会」で、「ほっかいどう学」の概要などを紹介するとともに、当該夏の学習会ではニーズなどに関するアンケートを実施しました。

4 おわりに

北海道開発局は、今後とも、各機関などと連携を図りながら、国民・道民が分かりやすく学ぶことができる「ほっかいどう学」の展開に向けて取り組んでいきます。また、各機関や団体が主体的に展開する「ほっかいどう学」の取組が普及・拡充され、子どもたちから大人まで、より多くの人々が地域づくりに関心を持つ契機を創出するための北海道の魅力や個性について、幅広く学ぶことができる環境を実現することを目指してまいります。

北海道の地域特性・個性に関する学習内容のイメージ

1 自然

- ◆ 全国の約2割を占め、九州地方の約2倍の面積に相当する広大な面積
- ◆ 全国の国立公園面積の約1/4を占め、6箇所ものラムサール条約登録湿地を有する豊かな自然
- ◆ 強震や雷の発生が全国に較べ低い自然災害リスク
- ◆ ……

2 歴史・文化

- ◆ 自然と共生し、口承文芸、伝統的工芸品などを育んできたアイヌ文化
- ◆ 日本各地からの移住者が形成した開拓と近代化の歴史
- ◆ 北海道・北東北にまたがる縄文文化の遺跡や、北方諸民族との交流がうかがえるオホーツク文化の遺跡
- ◆ ……

3 環境

- ◆ 全国の陸上風力の約3割、地熱発電の約6割の賦存量を占める豊富な再生可能エネルギー
- ◆ タンチョウやヒグマなどの北方圏地域の動物を始めとする多様な野生生物の生育・生息
- ◆ ……

4 産業

- ◆ 本州とは異なる産業構造・就業構造
- ◆ 食料自給率約200%といった我が国の食料供給基地
- ◆ 比較優位がある農林水産業・食関連産業、観光関連産業
- ◆ ……

5 地域づくり

- ◆ 人口密度が全国の約1/5、都市間距離が全国の2～3倍といった広域分散型社会
- ◆ 国による開発政策を背景とした急激な人口増加
- ◆ ……

6 〇〇〇〇〇〇

- ◆ ……
- ◆ ……

人

- ◆ 時代の先端を切り開いた技術者
- ◆ ……

経済

- ◆ フィンランド、アイルランドなど欧州の一国にも匹敵する規模の地域経済社会
- ◆ ……

インフラ

- ◆ 積雪寒冷の厳しい気象条件、土壌条件等を克服して地域を支えるインフラ
- ◆ 北海道発の新技術
- ◆ ……

※ ほっかいどう学第2回は、4月号の予定です。